平成２８年 第１回 大山町総合教育会議 会議録

日　時 ： 平成２８年７月２１日（木）
午前１０時～
場　所 ： 名和公民館　　第１会議室

出 席 者　（ 大 山 町 ） 町　長：森田　増範
（教 育 委 員） 委員長：伊澤　百子　　委員長職務代理：湊谷　紀子
委　員：金田　吉人　　委　員：林原　浩子
教育長：山根　　浩

その他の出 席 者　教育次長（齋藤）、幼児・学校教育課長（林原）、人権・社会教育課長（門脇）、幼児・学校教育課 学校教育室長（佐藤）

参 観 人　　1人

日　程

１．開会宣言（午前１０時）

教育長　　ただ今から今年度第１回目の大山町総合教育会議を開会する。
日程については、配布資料のとおりである。
開会にあたり町長からあいさつをいただきたい。

２．あいさつ

町長　　国の制度改正の中で、昨年度から総合教育会議を開催することになった。本町ではこれまでも町長と教育委員会とが互いに情報共有しながら教育行政を進めてきたので、今さらという感もある。本町では保育所を教育委員会が所管しているが、私も学校教育前の幼児教育の大切さについては認識しているところである。今年度は、健康対策課に子育て支援室を新設し、産前、産後のケアや子育てに対する様々な支援を先んじて進めていこうとしているところである。子育て支援室長にも思いを持って取り組んでいただいている。子育て支援室と教育委員会とが連携し、母子手帳を交付したところから、保・小・中のつながりの中で、一貫した取り組みを進めていきたいと考えている。
特に、メディアについては、小・中学校での問題も取りざたされているが、それ以前の段階から保護者に意識を持ってもらいたいと考えている。今年の２月にご講演いただいた清川氏には、１０年以上前の旧大山町時代にもＰＴＡ研修でお話を伺ったが、メディアは大きく進化し、子どもたちにとってはより脅威になっていると考える。先日出席した防犯の会においても、ネットの中で子ども同士のつながりだと思っていたところが、相手は悪意のある大人であり、子どもが性犯罪に巻き込まれるといった事案もあると伺った。このような現代社会においては、お父さん、お母さん方にメディアの問題についての意識づけをしっかりと行っていくことがとても大切なことと考えている。本町においては、様々に手立てもしていただいているようであるが、今後一層の取り組みを考えていきたい。
今日は限られた時間であるが、よろしくお願いしたい。

教育長　　次に、教育委員長からあいさつをいただきたい。

委員長　　本日は昨年に引き続き２回目の総合教育会議である。町長のお話を伺い、教育への大きな期待と危機感を持っていただいていることを感じている。教育委員は、これまでも学校や保育所を訪問し、課題と感じたことは率直に伝え、子どもたちの良い姿が見られればともに喜び、そのことを先生方に伝えてきた。そのような中で、本町の教育は確実に前進していると感じている。

今日の話題となっているメディアの問題は深刻なものと感じている。大人として、地域全体としてどう向き合っていくか考えていくことが大切だと考える。本日、資料として「大山町メディアから子どもを守る実践会議設置規約」を配布していただいているが、今後どのように取り組んでいくのか、現場の子どもたちの姿を踏まえながら今日は意見交換をしていきたい。

３．議事日程

日程第１　協　　議　　子どもとメディアの問題について

教育長　　協議に入る前に、「大山町教育等に関する『大綱』」を配布しているのでご覧いただきたい。この「大綱」は、昨年度の総合教育会議で協議し、策定したものである。これをもとに、大山町の教育を進めており、保・小・中ともに良くなってきている。今年は、文化財についても、立て続けに良いニュースがあった。大山中学校の大規模改修工事も始まっており、教育施設関係の大きな工事はこれで一段落と考える。開会前に委員から、名和さくらの丘保育園の夕涼み会のことを伺った。他の保育所も同様であるが、保育所もよく頑張っていると感じている。この「大綱」をベースにそれぞれがつながりを持って努力しているということを再確認しておきたい。

今朝のニュースで「ポケモンGO」というゲームについて、内閣のサイバーセキュリティから注意喚起がなされたと聞き驚いた。アメリカでは2500万人がこのゲームをやっているとのことである。このゲームにより、任天堂の株価も上がり、時価総額が過去最高の4兆5千億円とも言われている。私たちは、それほど魅力のあるゲームなどのメディアと対峙していかねばならない。

協議の初めに、今までの取り組みと大山町の現状について事務局から説明する。

教育次長　　資料１～３を用いて、これまでの県教育委員会の取り組みや県ＰＴＡ協議会の取り組み、町内各学校におけるノーテレビなどのおおまかな取り組みについて説明。

学校教育室長　　資料４に沿い、全国学力学習状況調査質問紙から見える大山町の児童・生徒の実態、鳥取県教育委員会「インターネットの利用に関するアンケート」から見えるトラブルの状況、総務省インターネットトラブル事例集からの事例、睡眠と学力に関する調査研究事例、全国体力運動能力調査結果から見える大山町児童・生徒の運動能力などについて説明。

学校教育室長　　資料４に加えて、保育所、小学校、中学校等の最近の取り組みや今後の予定について紹介。

教育長　　以上の説明をもとに、ご意見をいただきたい。

委員長　　大山町の児童・生徒の状況に関する資料を見て、ショックを受けた。全国学力・学習状況調査の結果については、その都度説明を受け把握していたつもりでいたが、このように、メディアに関するところをまとめて提示していただくと、これほどテレビやゲームの時間が長かったのか、体力面にも影響しているのではないか、といったことが明確になり、これを見られた方は同様に危機感を持たれたのではないかと感じた。

フィルタリング体験研修などの取り組みは、他校でもされたら良いと感じた。先生方も率先して取り組んでいただくとありがたいと考える。

委員　　メディアの問題と睡眠、学力、体力等との関連がよくわかる貴重なデータだと感じた。このようなデータは、社会教育委員・公民館運営審議会委員以外の一般の保護者に対しては出されているか。

学校教育室長　全国学力・学習状況調査の結果については、例年「広報だいせん」でも公表しており、その中で、メディアと触れる時間のことや家庭学習の時間のことなどは示している。町のホームページにはさらに詳しいデータも示している。

委員　それらのデータを、どれだけ意識を持って見ておられるかが疑問に思うところである。

教育長　学校ごとの状況については、学校便りでも伝えている。

委員　保護者も年々入れ替わっていくので、たびたび、このような情報を伝えていくことが大切だと考える。多くの保護者はそこまでの危機感を持っていないのではないかとも思うので、どんどんこのようなデータを出してもらいたい。子どもたちにも、自分たちのことなんだよ、ということを教えてほしい。勉強していないのによくこれだけの学力の結果が出ていると感じた。
今朝のニュースでも「ポケモンGO」の話があったが、子どもたちを取り巻くメディアの危険が益々増えていきそうに感じている。

林原委員　いろいろな研修会にも参加し、親にも危険性やルールが分かってきた。名和小学校でも、今年初めて親子一緒のメディアに関する学習会が行われた。講師から親に対していくつかの問いがあり親が挙手する場面では、子どもたちが自分の親が手を挙げる様子に注目していた。このような研修が定着していけばと考える。
勉強をしてきて親の意識も変わり、例えば、「夜は絶対ダメ」ということがきちんと守られるようになってきた。

教育長　町全体のデータとご自身の子どもさんとを比較されて、どう感じられたか？

委員　スポーツ少年団の活動もあり、平日はこれほどテレビ等を見る時間はないと思うが、スポーツ少年団の練習のない日は２時間くらい見ているかとも思う。土日になると、資料と同じくらいテレビやゲームに接しているかもしれない。
今はなくなったが、以前は「〇〇さんがしているから、今はお風呂に入れない」といったこともあり、インターネットでつながって一緒にゲームをするといった状況があった。

教育長　きちんと親がコントロールしておられる家庭とそうでない家庭と二極化しているのではないかと考える。

委員長　これらの機器は日進月歩で、親も含めて、自分で学びながら自分でコントロールできる人を育てていかねばならないと感じる。

教育長　町長はどう感じられたか。

町長　まず、学校教育室長にきちんと整理してもらっていると感じた。先に、１０年ほど前の話もしたが、メディアのレベルが当時と今とで大きく変わっている。最近の脳科学によると、子どもの脳に対して悪い影響を与えるということが明らかになっている。このような情報を伝える努力が必要と考える。現状をきちんと捉えるとどうするかが見えてくると思う。その一つとして、脳科学の研究成果を伝えること、特に乳幼児期の保護者に徹底的に伝えることが大切だと考える。現実には、脳への悪影響といったことにとどまらず、いじめや性犯罪につながるケースも報告されており、メディアの危険性は拡散している。そのようなことをきちんと伝えたうえで、実践会議で何をするかを考えていけばよいのではないか。
先程紹介のあった事例などで、効果的なものを町全体で取り組み、ルールとして作り上げていくことが大切だと考える。教育委員会がすること、学校がすること、保護者がすること、親子で一緒にすると効果的なこともあるだろうが、それぞれが取り組み、年度末に全町での発表会のようなものをしていくことも必要と考える。例えば、午後９時になったら親が預かるといったことを全町で行えば、親が理由を問われても「こういう町だから」と答えられる。

町長　　先程、二極化といったことがあったが、やる家庭、やらない家庭の差を埋めるためにも。健康対策の問題などについても、熱心な方３割、関心はあってもなかなか取り組まれない方が６～７割といった状況で、高位平準化がテーマとなっている。メディアの問題も同様で、町のあらゆる課題に共通したものである。きちんと受け止めて取り組もうとする人の輪を広げてもらう、そのためにどういう仕掛けをするかということが実践会議の力によるところかと考える。

教育長　　実践会議の規約をお配りしたが、会長として考えたことは、同じようなメンバーが集まる色々な会議をどんどん作っていってもなかなか動かないので、少人数の頭脳集団として、パッと集まり実行していける会にしたいということだ。
　実践するのは学校やＰＴＡだが、もう一つ、本町の特色である読書活動の推進と絡めて取り組みたいと考えている。さらに、子育て支援室との連携も大切にしたい。早速、リーフレットの配布なども連携して行っている。もう動き始めているが、まったく意識のない人があるのも事実。それを踏まえながらも取り組みを進めていくことが大切と考える。第１３回を迎えた「子育ての旅」でもメディアに関する内容を含めている。何回も何回も繰り返していくことが大切であろう。

委員　　これまでのお話を聞いて、良いことだなあと感じた。個々の親では危機感を持っていても対応し切れない。ＰＴＡなど、組織での取り組みが必要と考える。合わせて、学校の先生方も重要な役割を持つと考えるが、先生方は先のデータや危機感について認識しておられるか。

学校教育室長　　先生方は日々危機感を持って児童・生徒に向き合っている。だからこそ、例えばある中学校では、調査結果の分析をし、さらに事前アンケートを実施したうえで、講演会を開催し、その後、学活や道徳の授業でも情報モラルの指導をするといった取り組みを行っているが、学校だけではどうしようもない部分もあり、気の毒に思うくらいである。

委員　　このような課題を徹底的に伝えていくこと、そして、具体的な町全体の基準を作っていくことが大切と考える。

町長　　３チャンネルを使うということも考えてはどうか。良い取り組みを取材してもらい３チャンネルで流すなど。

学校教育室長　　実は、先の校長会でもそのような話が出ている。生徒会の取り組みとして３チャンネルを使って呼びかけたり、ＣＭ化したものを流すといったことも案として考えている。

町長　　取り組みを知っているのはほんの一部の者だけであるが、それを映像を通じて広げてはどうか。予算をつけてでも、映像を作ってもらい、それを次年度以降にも繰り返し流していくといったことも３チャンネルならできる。
　配布されたこの資料も、今日のように話を聞きながら見るとよく分かる。作った人の思いを１０とすると、読んだだけでは２くらいしか伝わらないものだと思うが、合わせて話を聞けば８くらい伝わる。
　また、テレビに子どもが出れば親も見る。３チャンネルに映った人は良く見ているし、繰り返し放送されれば、多くの人が見るだろう。

委員　　テレビの影響力ということに関連して、最近放映された番組で見たことだが、ある荒れた学校にドラマ撮影の依頼があったそうだが、その学校は、撮影を受ける際に２つの条件を出した。一つは生徒全員を出してほしいということで、二つ目は全員黒い髪で出してほしいということだった。それまで、髪を金髪に染めた生徒が大勢いたが、テレビに映るということで、一発で全員が髪を黒くしたそうだ。

町長　　実践会議は、平成２８年度に整理をし、平成２９年度でゴー、という方向で進めてほしい。学校教育室長の頭の中には構想があると思うので、できることはやりながら、平成２９年度からスパンとやることを作り出してほしい。

委員　　働く親は忙しくて、なかなか子どもに関われず、子どもが好きなテレビやビデオを見せて、おとなしくしてくれていればその間に家事をするといったことになっているのだと思う。悪いと分かっていても、メディアの力に頼らざるを得ない現状もあると思う。

委員長　　確かにそのような状況はあると思う。

町長　　子どもが機器を持たない時期の取り組み、子どもが機器を持ってからの取り組みを分けて考えることも必要かもしれない。

委員　　先程の資料で、小学生の４割、中学生の６割が持っているとあり、多いと感じた。

町長　　乳幼児期や保育所の時期に、親にどれだけメディアの弊害を伝えるか、脳科学の面でも電磁波の影響などについても耳にタコができるくらい伝えていくことが大切だと考える。３チャンネルで流せるような映像を作ってもらうとよいと考える。ＰＴＡの研修などにも使えるようなものでも作られるかもしれない。それを見て、それならば自分の子に持たせるのはやめようかな、と思う親が少しでも出てくれば良いと考える。

委員長　　メディアを使って、メディアの危険性を啓発するということ。

町長　　以前、「２歳まではテレビを消してみませんか」といったＤＶＤがあり、我が子が親になるころに見せてやろうと思っていたが、もう今の時代には合わないものになってしまっている。そんなものを作ることも考えられるのではないか。

学校教育室長　　学校や保育所の良い実践についても今聞き取りをしており、校長会でもＣＭ作りのような話も出ているところである。

教育長　　これまでの議論で、だいたいの方向性も定まってきたかと思う。「蟷螂の斧」ともいうべきことと感じるが、企業や優秀なクリエイターなどが力を尽くして作り上げ、巨大な力を持っているメディアに対し、大山町が立ち向かっていくということかと思う。内閣府から注意喚起が出るくらいの、あれだけ面白いゲーム、大人も夢中になるゲームなどを作り出してくる中で、それに打ち勝つのは難しいことだと考える。そのような現状であっても、大山町では、みんなで何とかしていこう、共通のルールを決めていこう、といったことをこれからも連携してやっていきたいと考える。

予定の時間となったので、以上でこの度の総合教育会議を閉会する。

４．その他　　特に意見、質問等なし。

５．閉会宣言（午前１１時３５分）